

黒木 登志夫 (くろき としお)

現職：日本学術振興会学術システム研究センター相談役
前岐阜大学長・東京大学名誉教授

略歴：

1960年東北大学医学部卒。インターンを経てがん研究に入る。東北大抗酸菌病研究所（現加齢医学研究所）肺癌研究部助教授（1967年）、東京大学医科学研究所癌細胞研究部助教授（1971年）を経て、1984年から1996年まで同教授。この間、米国ウイスコンシン大学に留学（1969-1971年）、WHO国際がん研究機関（フランス・リヨン市）に勤務した（1975-1978年）。1996年3月東京大学退官。1996年4月より2001年5月まで昭和大学腫瘍分子生物学研究所所長。2001年6月より岐阜大学長。2008年4月より日本学術振興会学術システム研究センター副所長、2012年4月より現職。

専門：発がんとかん細胞の細胞生物学。

主な受賞

1970年試験管内発がん実験成功により、第4回高松宮妃癌研究基金学術賞受賞。
1998年日本癌学会吉田富三賞（試験管内発がん、シグナル伝達研究、がんの解説書に対して）

学会会長

2000年日本癌学会会長

発表論文著書

英文発表論文：約240編

代表編著書

1. 『がん細胞の誕生』朝日選書284、朝日新聞社、1989年
2. 『がん遺伝子の発見』中公新書1290、中央公論社、1996年
3. 『科学者のための英文手紙の書き方』朝倉書店、1984年
4. 『細胞内のシグナル伝達』（編）日経サイエンス社、1996年
5. 『分子生物学のための、新培養細胞実験法』羊土社、1999年
6. 岩波講座・現代医学の基礎『細胞増殖とかん』（編）岩波書店、1999年
7. 『癌治療の最先端に迫る』（編）羊土社、2001年
8. 『健康・老化・寿命』中公新書、2007年